

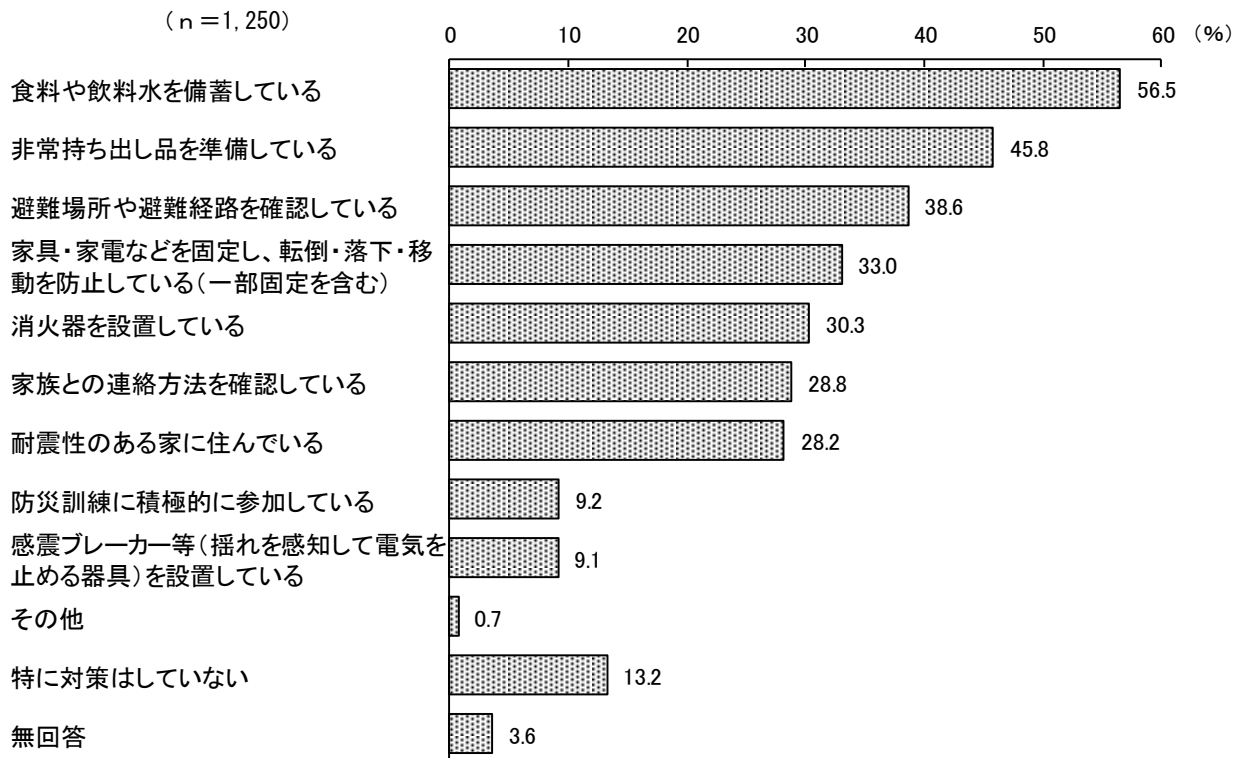
第20章 地震対策の取組【問64～問66】

1 大きな地震に備えた対策【問64】

【全体の状況】

神奈川県では、首都直下地震や南海トラフ地震、神奈川県西部地震の発生の切迫性が指摘されるなど、大規模地震に対する備えが重要な課題になっていることを説明した上で、大きな地震に備えて、どのような対策をとっているか複数回答で尋ねたところ、「食料や飲料水を備蓄している」が56.5%で最も多く、次いで「非常持ち出し品を準備している」が45.8%であった。（図表20-1-1）

図表20-1-1 大きな地震に備えた対策（複数回答）



【地域別の状況】

地域別にみると、「食料や飲料水を備蓄している」は、相模原が60.0%で最も多く、次いで川崎が59.1%となった。また、「非常持ち出し品を準備している」は、湘南が50.6%で最も多かった。

（図表20-1-2）

【性・年代別の状況】

性別にみると、「食料や飲料水を備蓄している」は、女性（59.1%）が男性（53.8%）を5.3ポイント上回った。

性・年代別にみると、「食料や飲料水を備蓄している」は、女性の60歳代が72.0%で最も多く、女性の50歳代（67.4%）・70～74歳（63.6%）が6割台が続いた。（図表20-1-2）

図表20-1-2 大きな地震に備えた対策（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	食料や飲料水を備蓄している	非常持ち出し品を準備している	避難場所や避難経路を確認している	家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している（一部固定を含む）	消火器を設置している	家族との連絡方法を確認している	耐震性のある家に住んでいる	防災訓練に積極的に参加している	感震ブレーカー等（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している	その他	特に対策はしていない	無回答
全 体	1,250	56.5	45.8	38.6	33.0	30.3	28.8	28.2	9.2	9.1	0.7	13.2	3.6
【地 域 別】													
横 浜	457	57.5	44.6	37.4	36.8	36.3	31.1	29.8	10.9	7.9	0.9	10.1	3.7
川 崎	176	59.1	44.3	42.0	34.1	27.8	27.8	28.4	4.5	9.7	0.6	15.9	1.7
相 模 原	90	60.0	44.4	43.3	26.7	31.1	24.4	37.8	11.1	7.8	-	12.2	1.1
横 須 賀 三 浦	101	54.5	46.5	36.6	25.7	28.7	30.7	19.8	4.0	4.0	-	14.9	5.0
県 央	115	49.6	45.2	33.0	33.0	23.5	19.1	26.1	7.0	7.0	1.7	21.7	3.5
湘 南	178	57.3	50.6	40.4	34.3	27.0	32.0	28.7	11.2	16.9	0.6	10.1	5.1
県 西	42	54.8	47.6	33.3	21.4	23.8	26.2	28.6	9.5	9.5	-	16.7	4.8
【性・年代別】													
男 性	506	53.8	44.3	37.5	32.8	30.8	30.0	29.2	8.7	7.5	0.8	14.6	3.0
女 性	619	59.1	47.3	39.3	33.6	30.0	27.6	28.1	9.0	9.7	0.5	12.0	3.4
男性18～19歳	4	50.0	50.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-
20歳代	31	41.9	48.4	35.5	25.8	22.6	48.4	16.1	-	3.2	-	16.1	3.2
30歳代	48	50.0	39.6	22.9	12.5	16.7	16.7	25.0	2.1	-	-	22.9	2.1
40歳代	97	58.8	48.5	42.3	40.2	19.6	39.2	35.1	6.2	7.2	-	13.4	-
50歳代	97	52.6	42.3	26.8	30.9	29.9	27.8	26.8	7.2	4.1	-	21.6	3.1
60歳代	110	49.1	38.2	42.7	35.5	35.5	27.3	26.4	10.0	6.4	1.8	12.7	4.5
70～74歳	53	60.4	60.4	49.1	41.5	41.5	30.2	35.8	15.1	18.9	1.9	7.5	3.8
75歳以上	66	59.1	39.4	39.4	30.3	47.0	24.2	33.3	16.7	13.6	1.5	9.1	4.5
女性18～19歳	4	50.0	25.0	-	50.0	25.0	50.0	-	-	-	25.0	-	-
20歳代	67	46.3	37.3	26.9	19.4	16.4	31.3	23.9	1.5	3.0	-	20.9	1.5
30歳代	84	47.6	47.6	32.1	29.8	15.5	29.8	28.6	10.7	6.0	-	16.7	4.8
40歳代	132	56.1	46.2	34.1	22.7	22.0	18.9	33.3	4.5	8.3	0.8	17.4	2.3
50歳代	95	67.4	51.6	46.3	47.4	37.9	33.7	33.7	5.3	8.4	1.1	8.4	2.1
60歳代	118	72.0	45.8	45.8	36.4	36.4	22.0	28.0	11.0	11.9	-	4.2	5.1
70～74歳	44	63.6	52.3	47.7	43.2	45.5	40.9	13.6	15.9	15.9	-	9.1	-
75歳以上	74	56.8	54.1	45.9	41.9	44.6	29.7	25.7	20.3	17.6	-	6.8	6.8

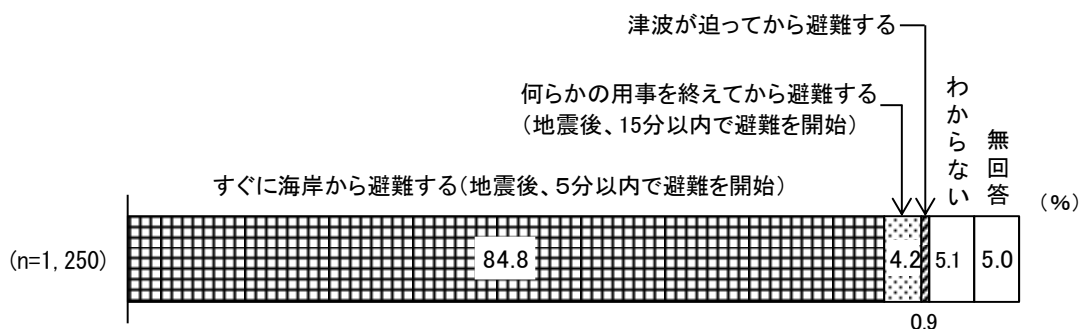
2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動【問65】

【全体の状況】

海岸や海岸近くで、地震による強い揺れや長い時間の揺れを感じたらどう行動するか尋ねたところ、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）」が84.8%で最も多かった。

(図表20-2-1)

図表20-2-1 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動



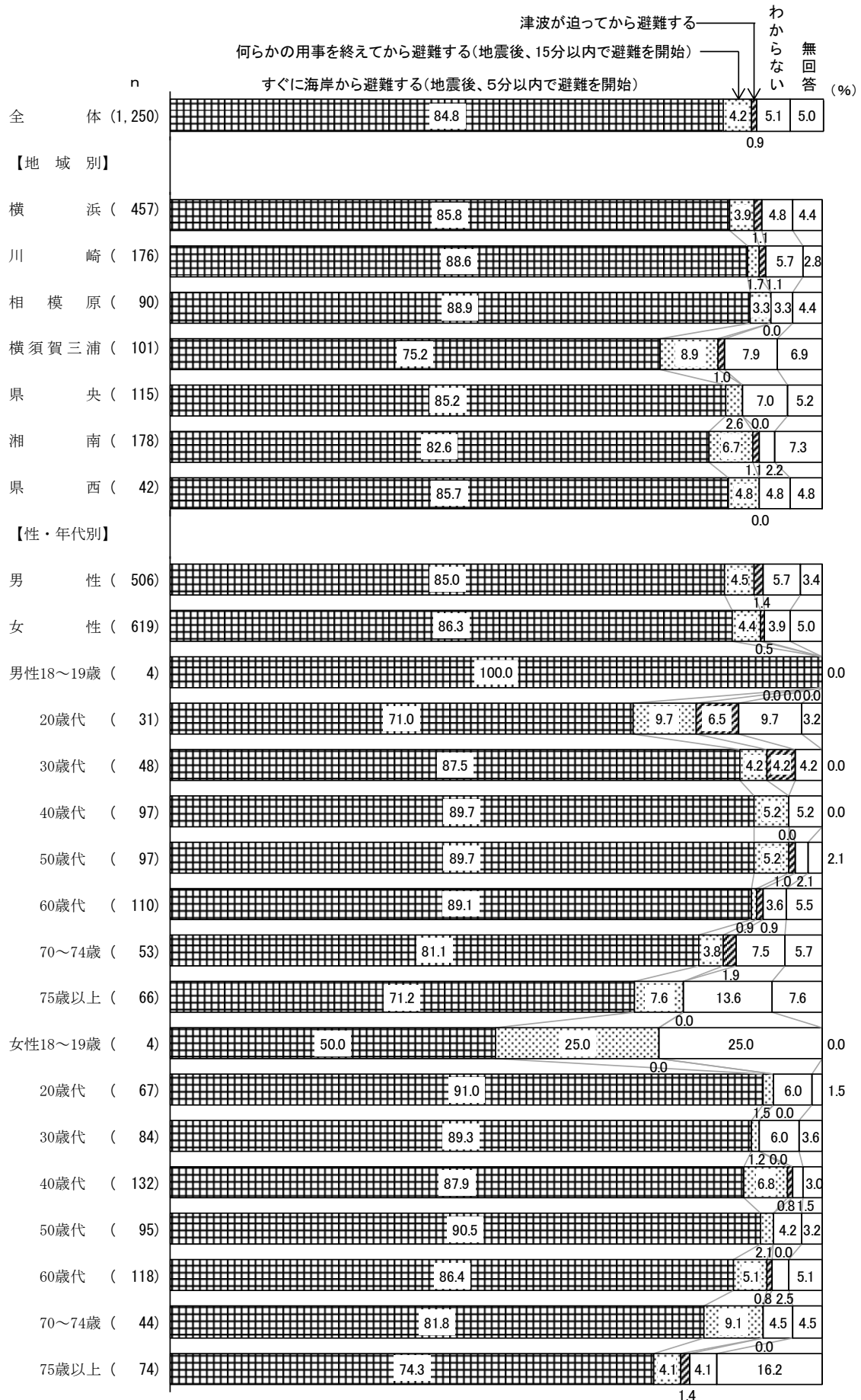
【地域別の状況】

地域別にみると、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）」は、横須賀三浦（75.2%）を除く6地域（82.6%～88.9%）で8割を超えて多かった。（図表20-2-2）

【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「すぐに海岸から避難する（地震後、5分以内で避難を開始）」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が91.0%で最も多く、次いで女性の50歳代が90.5%となった。（図表20-2-2）

図表20-2-2 海岸で地震による強い揺れを感じたときの行動—地域別、性・年代別



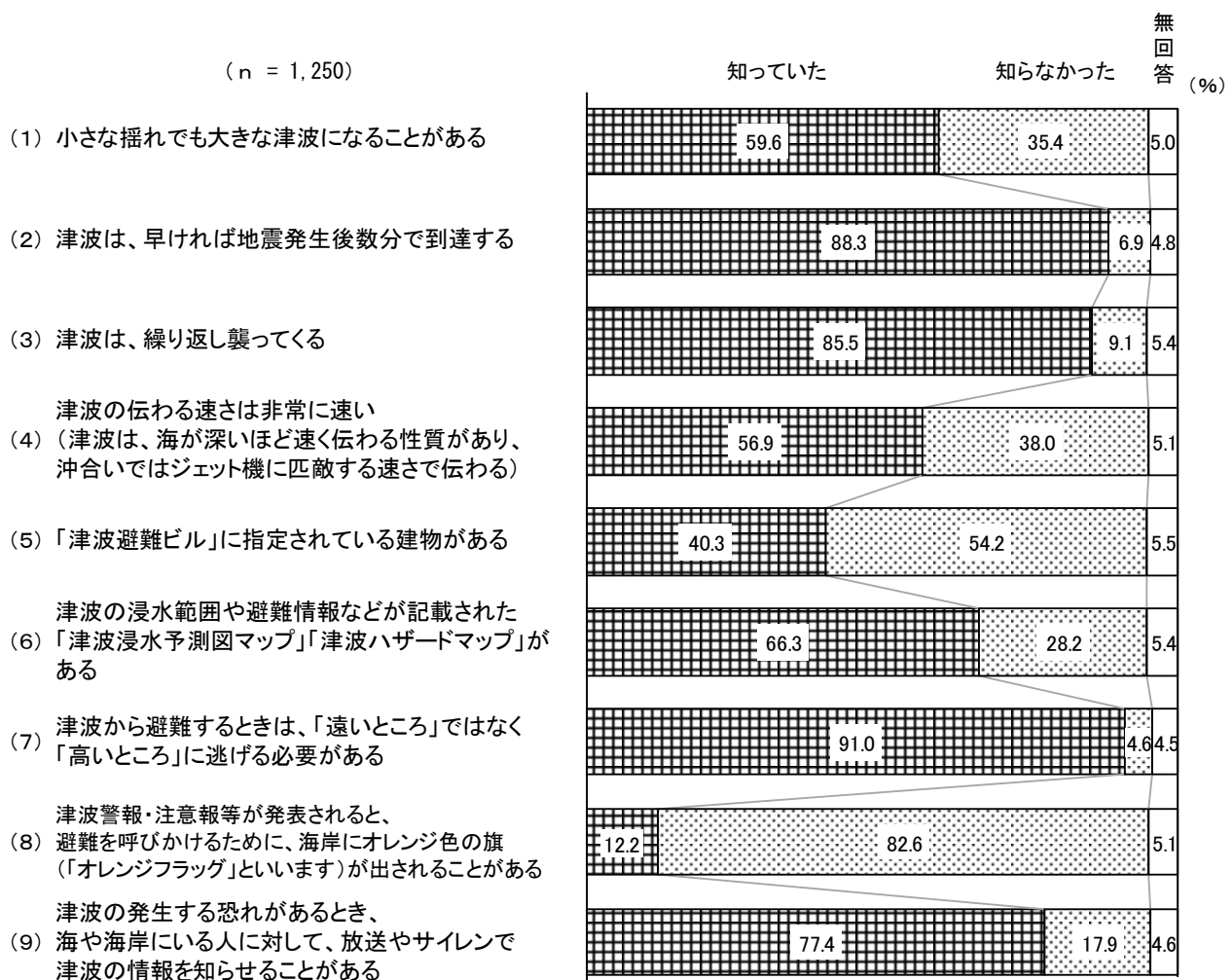
3 津波に関する知識【問66】

【全体の状況】

津波に関する9項目を提示して、それぞれ知っていたかどうか尋ねたところ、「知っていた」では、「(7)津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」(91.0%)と「(2)津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」(88.3%)がともに約9割で多かった。

一方、「知らなかった」では、「(8)津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗(『オレンジフラッグ』といいます)が出されることがある」が82.6%で最も多かった。(図表20-3-1)

図表20-3-1 津波に関する知識



【地域別の状況】

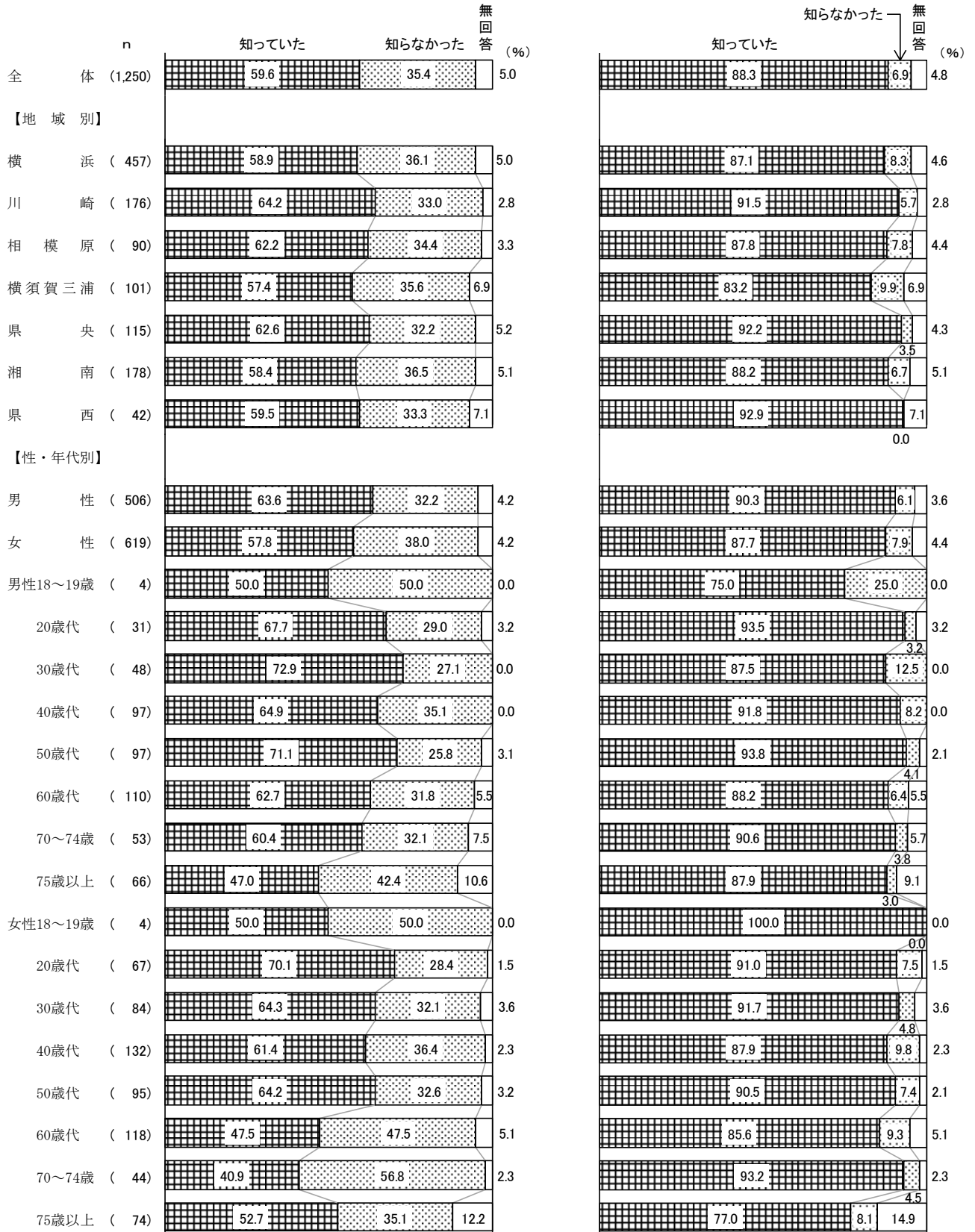
「知っていた」の割合を地域別にみると、「(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある」では、川崎 (64.2%)、県央 (62.6%)、相模原 (62.2%) がそれぞれ6割台となった。「(2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する」では、県西が92.9%で最も多く、県央 (92.2%) と川崎 (91.5%) が続いた。「(4) 津波の伝わる速さは非常に速い (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)」では、横須賀三浦 (64.4%)、湘南 (62.4%)、川崎 (60.8%) がそれぞれ6割を超えた。「(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された『津波浸水予測図マップ』『津波ハザードマップ』がある」では、湘南 (75.8%) と県西 (73.8%) がともに7割台で多かった。「(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある」では、川崎 (81.8%)、県西 (81.0%)、県央 (80.0%) がそれぞれ8割以上で多かった。(図表20-3-2)

【性・年代別の状況】

「知っていた」の割合を性・年代別にみると、「(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある」では、男性の30歳代が72.9%で最も多く、男性の50歳代 (71.1%) と女性の20歳代 (70.1%) が7割を超えて続いた。「(4) 津波の伝わる速さは非常に速い (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)」では、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の50歳代・70～74歳がともに66.0%となった。「(5) 『津波避難ビル』に指定されている建物がある」では、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、男性の40歳代が52.6%で最も多く、次いで男性の50歳代が49.5%であった。「(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された『津波浸水予測図マップ』『津波ハザードマップ』がある」では、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男性の30歳代が79.2%で最も多く、次いで女性の20歳代が77.6%と多かった。「(7) 津波から避難するときは、『遠いところ』ではなく『高いところ』に逃げる必要がある」では、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男性の30歳代が95.8%で最も多く、次いで女性の70～74歳が95.5%と多かった。「(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある」では、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男性の20歳代 (83.9%)・40歳代 (82.5%)、70～74歳 (84.9%)、女性の20歳代 (83.6%)・30歳代 (83.3%)・50歳代 (80.0%) がそれぞれ8割以上で多かった。(図表20-3-2)

図表20-3-2 津波に関する知識—地域別、性・年代別

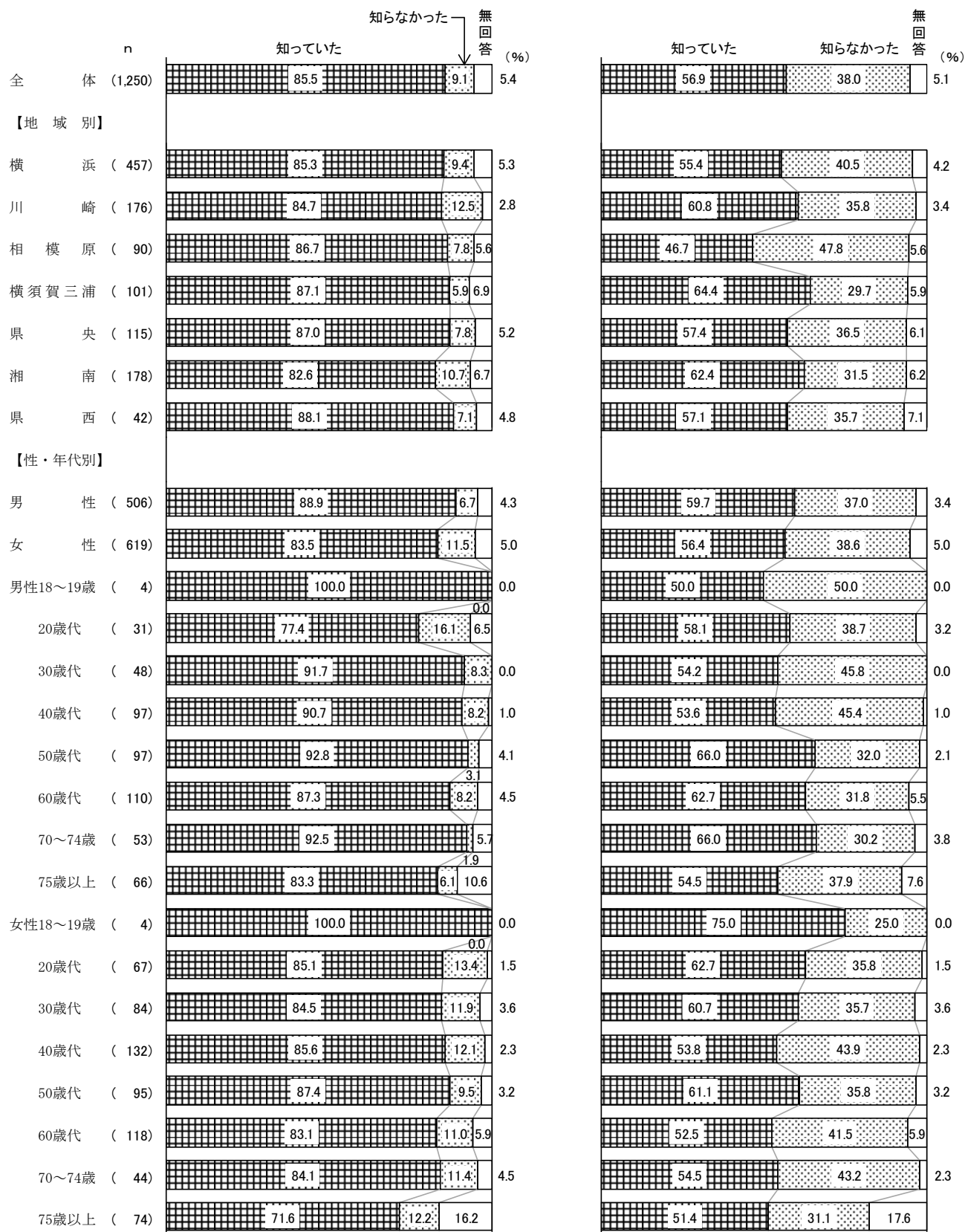
(1) 小さな揺れでも大きな津波になることがある (2) 津波は、早ければ地震発生後数分で到達する



図表20-3-2 津波に関する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(3) 津波は、繰り返し襲ってくる

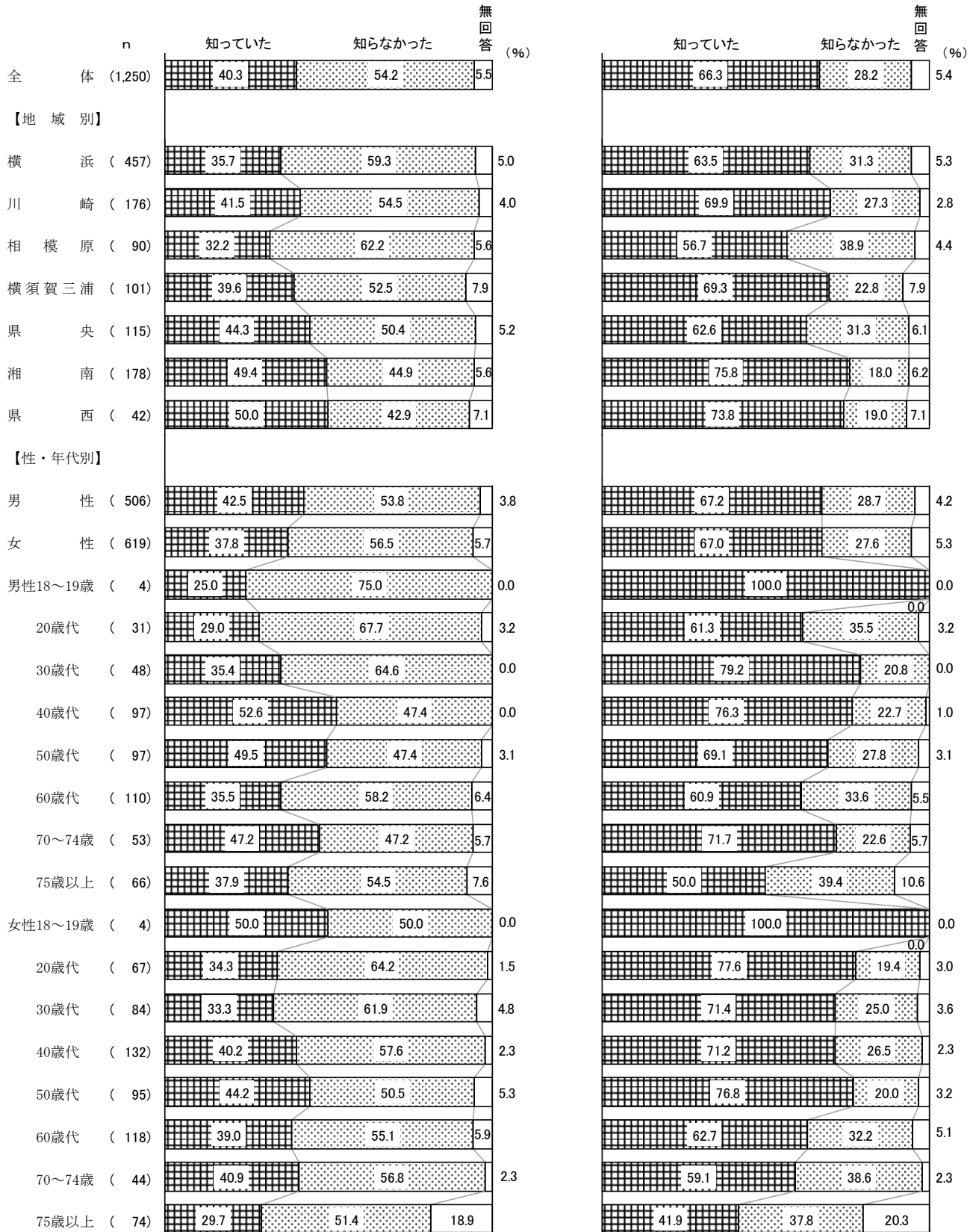
(4) 津波の伝わる速さは非常に速い
 (津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わる)



図表20-3-2 津波に関する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(5) 「津波避難ビル」に指定されている建物がある

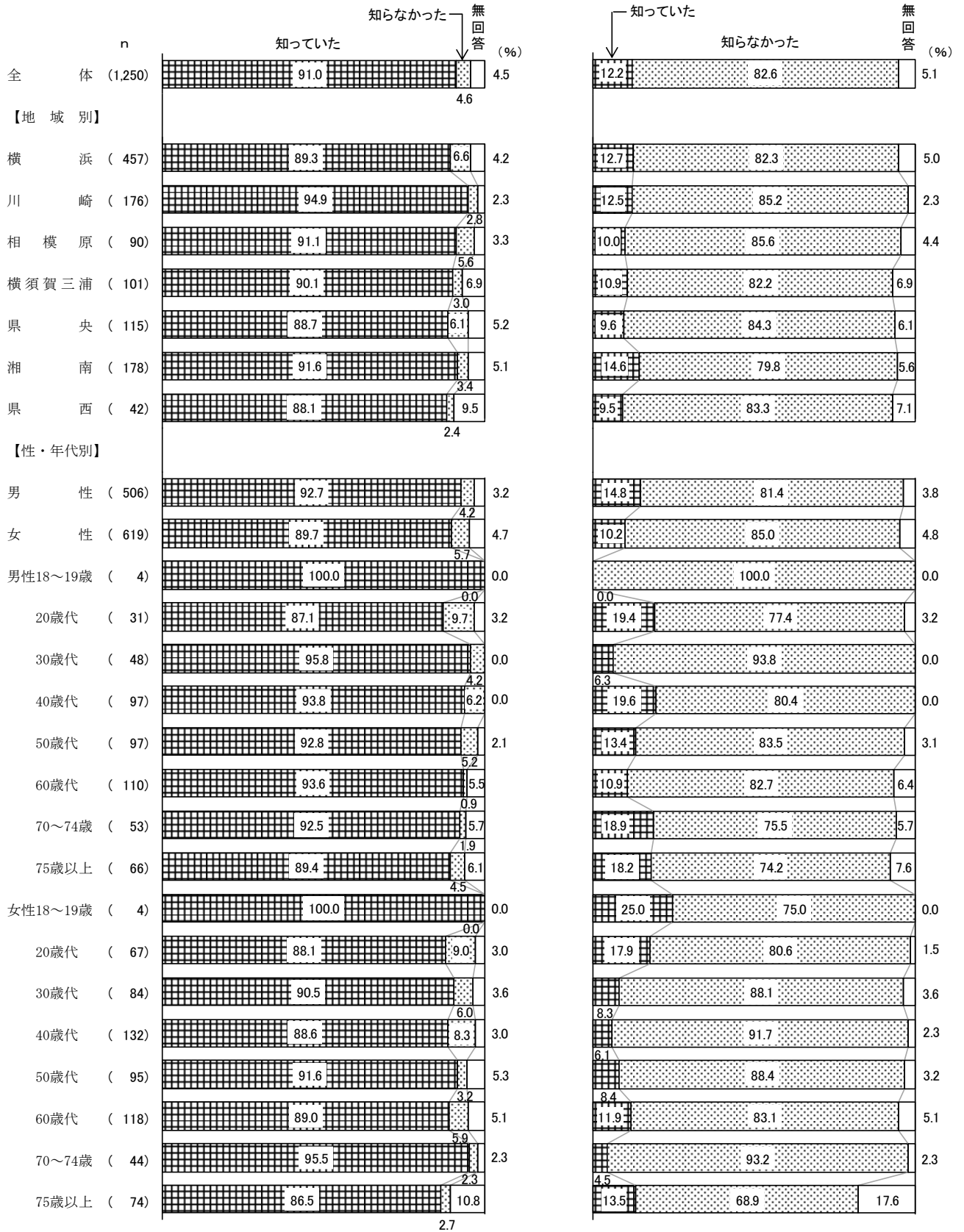
(6) 津波の浸水範囲や避難情報などが記載された「津波浸水予測図マップ」「津波ハザードマップ」がある



図表20-3-2 津波に関する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(7) 津波から避難するときは、「遠いところ」ではなく「高いところ」に逃げる必要がある

(8) 津波警報・注意報等が発表されると、避難を呼びかけるために、海岸にオレンジ色の旗（「オレンジフラッグ」といいます）が出されることがある



図表20-3-2 津波に関する知識—地域別、性・年代別（つづき）

(9) 津波の発生する恐れがあるとき、海や海岸にいる人に対して、放送やサイレンで津波の情報を知らせることがある

